

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立八幡工業高等学校

自己評価 学校運営計画(4月) 評価(総合) A
学校運営方針: 本校は、地元産業界からの強い要請により昭和8年に開校、以来、「地域に根ざす工業高校」また「ものづくり教育をとおした「ひとづくり」に、時代の変遷を見据えながらこれまで真摯に取り組んできた。近年の技術革新の進展はもとより、society5.0や世界情勢の変化に伴う社会変化、アフターコロナを見据えて、『鍛ほめ福岡メソッド』(鍛えて、ほめて、子どもの可能性を伸ばす)を軸に「子ども本位」の指導を推進し、持続可能な社会の創り手として、地元へ貢献できる八工生を育成していく。
昨年度の成果と課題: 年度重点目標 具体的目標
アフターコロナを見据え、教育活動を活性化させるとともに、教職員の授業改善を推進するために「主体的対話的な深い学び」を実現させ、指導と評価の一体化を目指した学習評価を検討することによって魅力ある授業ができるよう取り組む。また、魅力ある授業が学校活性化につながり生徒募集につなげたい。

学校関係者評価
評価(総合) A
自己評価は
A: 適切である
B: 概ね適切である
C: やや適切である
D: 不適切である
項目ごとの評価: 学校関係者評価委員会からの意見
ICT機器の活用が、これからますます重要となってくるので、これまでの授業形態の見直しを図り、より時代に即した授業方法となることを望みます。
生徒指導においては、関係機関との早急な情報共有・事案対応が実施されている。美化活動においては、積極的に取り組まれ、学び舎を作り上げることへの意識が高い。
個々の生徒に応じた適切な指導がなされている。進路意識の高さは、自分を大事にすることの表れであり、3年間のキャリア教育の成果が就職率の高さとお助け隊については、地域の方々から大変喜ばれている。
ようやくコロナの制約が全て解け、様々な活動ができるようになったので、学校でしかできない体験、集団で何かを作り上げる体験など、生徒の成長につながる活動を行ってほしい。

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- すべての学校行事に対する制約がなくなり、教育効果の高い行事や地域と連携した活動を取り戻すことで学校の活性化を目指す。
タブレット端末の活用についての職員研修において、他校の事例研究や外部機関との積極的な連携を行い、教職員の授業改善をさらに進める。
教員のみが組み立てる授業から、生徒のニーズや保護者の希望、地域や産業界などが本校に求めるものを取り入れた「開かれた学校教育」を実践する。
生徒の主体性や創造性を育むことを目的とした様々なキャリア教育を計画・実践し、生徒一人一人の希望進路実現を目指す。
教職員の働き方改革を推し進め、教職員が心身にゆとりを持って生徒と向き合うことのできる環境づくりを目指す。

評価項目以外のものに関する意見
体育大会などの行事に参加させていただき、生徒たちの頑張りに感動しました。
今後は地域の行事にもぜひ参加をお願いします。